

巻頭言



“今だからこそ”

(社)大阪府作業療法士会 副会長 古志 康則



(市立豊中病院)

気候的に、例年通りでない状況の中です。会員の皆様、利用者の方々の、体調維持・管理の心配りと同時進行で、自身の身をも振り返って、ご自愛ください。

さて、府士会活動ですが、会員皆様の、日々ひたむきなご尽力により、地道に推進しております。特に、活動の背景となる、予算につきましても、皆様のご理解も徐々に高まっており、会費納入率も向上しつつあります。今後ともご協力の継続をお願いいたします。

ところで、小休止の合間に、ふと、世の流れを見渡せば、毎日休むことなく様々な事象が起こっています。景気低迷は継続的、刹那的事件の多発、温暖化のためか、天候不順の連続、ここに来て、国政における衆議院の解散等、国民の不穏を高める出来事が多いこと。逆に高揚する出来事も、W.B.C.での日本優勝。先日の、宇宙へのロマンに浸った日食。また、身近なこととして、日本作業療法士協会会長に、我が近畿の僚友中村氏が着任されたこと。陰陽が交叉しながら、歴史は刻まれていく。そんな複雑な心境に陥ってしまうこの頃であります。

このような、不安定要素の高い、時の流れのなかだからこそ、確固たる“軸”が必要ではないかと思えます。“軸”とは、様々な考え方があっていいと思います。今は、帰郷性の高いものとお考えください。そして、今回は、日本国と位置付けます。この、日本を語る時、皆様は、何を基本としていらっしゃるでしょうか?例えば、海外からの来客に対して、日本を説明する時、何をもちて語られるでしょうか?

私は、ひとつの例として、“日本神話”を挙げます。誤解のないように、強く強調しておきます。決して、宗教的偏りはありません。

さて、神話についてですが、その全てを語る事は、知識的にも力量的にも不可能であります。ここに記するのは、ごく一遍のさわりみみの話になることをお許しください。まず、“天土のはじめ”のころから始まるようです。このころ、高天原の“天之御中主神”が、陽の働きをする“高御産巢日神”、陰の働きをする“神産巢日神”に姿をかえて、時空間を支えられる働きをなされたそうです。この神は、造化三神と呼ばれるそうです。そして、天地・大宇宙のなかの、いのちをしっかりと支えるため、他二神とともに、五柱によ

り、ありとあらゆる世界を支えていらっしゃるそうです。次第に高天原は、あらゆるものものを生み出してきたそうです。しかし下界の空間は、依然混沌とした状態でありました。しばらくして、下界にも明るさがさしてくるようになった時、天之御中主神が、“伊邪那岐神”と“伊邪那美神”の二神に、下界において、いのちの誕生を喜びあう世界の創造を命ぜられたそうです。この二神が、矛でかき回しざぐると、自ら転がる島“おのころ島(地球)”を見つけられたそうです。そして、天空よりこの島に降りてこられたようです。ここより、“国生み”が始まります。

まず、淡路島・四国・隠岐島・九州・壱岐・対馬・佐渡島・本州の八つの島をお生みになったとのことです。(大八島国と言われるそうです)その後、児島・小豆島・大島・姫島・五島列島・定かではないが、男島、女島の六島が生まれたそうです。次に、その大地に、存在するすべてのものを守る神々をお生みになったそうです。その数は、三十五神とされています。

このようにして、日本という基礎が成り立ったようです。この後、伊邪那美神は、火の神をお生みになったやけどがもとで、亡くなってしまったそうです。亡骸は、出雲国と伯伎国の境にある、比婆山に葬られたそうです。悲しみに耐えかねて、伊邪那岐神は、黄泉の国に会いに行くことになります。あの世とこの世で、同じ生活をしているという概念であったようです。ここからさらに神話は多様化していきます。よくご存じの、天照大御神・須佐之男命・大国主神などに繋がっていきます。これ以上になりますと、長くなりますので、とりあえずここまでとさせていただきます。

以上、掻い摘んで記述してきました。自分の成り立ちを、神話という形を通して、語り継ぐというのも、ひとつの帰郷性を高める手法ではないでしょうか?先行き不安定な、今だからこそ、帰郷性の高い“基軸”を持ち合う必要性を感じている、この頃です。

独善的な内容になってしまいましたが、繰り返します。決して、宗教心を語ったわけではありません。とにかく、ひとつになりますか?今後とも、府士会活動への参加、ご協力をお願いいたします。